

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 5 年 2 月 2 1 日（火）
用 務 先	広島県教育委員会 学びの変革推進部 個別最適な学び担当 不登校支援センター 広島県立教育センター内 東広島市八本松南 1-2-1
用 務	不登校等児童生徒への支援についての研修 不登校支援センター（スクールエス）視察
概要及び所見 （目的、参考 にすべき事 項、提言、活用 策等）	<p>視察先対応者：不登校支援センター長 他</p> <p>○不登校支援センターの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度の主な取り組み <p>令和 4 年度は不登校 SSR 推進校を小学校 7 校・中学校 25 校・義務教育学校 1 校設置している。担当教員を各学校 1 名加配措置しており、県教育委員会指導主事が定期的に学校訪問している。三次市においては塩町中学校が推進校となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSR(スペシャルサポートルーム)はどんな場所なのか <p>通常の教室への復帰を前提としていない、居場所であるとともに成長できる場所である。生きる力を育むことを目指す。つまり、相談する力・自分の強みを知り生かす力・にがてな場面で SOS を出せる力をつけていくことを目指す。</p> <p>学校らしく見えない教室を目指しており、個別学習と協働での学習の両立が可能なレイアウトとなっている。周りの視線を気にすることなく入室できる場所への SSR や SSR 用の靴箱を用意している。</p> <p>オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動を実施している。意外と好きな児童生徒がおり、積極的な面がでており、早めの出席をしてもらえることもある。オンラインと言う部分で何らかの形で社会につながるができる。</p> <p>○広島県教育支援センター（SCHOOL” S”）における支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCHOOL” S”における支援

子供たちの学びの選択肢の1つとして機能を強化している。学びの場としての環境作りやオンラインでの利用できる機器を整備している。

スクールエスと各SSR・学校とでは学習状況等を共有している。各市町の適応指導教室や民間のフリースクールなどからもオンラインによる利用が可能となっている。スタジオSを設置してオンラインでの利用できる機器を整備している。

SCHOOL” S”における支援は①保護者や学校からの問い合わせ相談②体験入室③学校を通して申込書を提出、という流れとなっている。

・広島 LEARN プロジェクト

学校における集団での学習に馴染めない児童生徒を対象として、知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成を目指した取り組みをしている。R4年度まで15回実施している。

○フリースクール等民間団体との連携体制の構築

令和4年度は情報共有会の開催している。今後少しずつ話を広げていく。

○個別最適な学び、探求セミナーの実施

好きなことを探求したことが現在の職業に結びついている講師を招き、好きなことを追求することの意義・難しさ・発想の転換の必要性等をテーマとしたセミナーを年5回実施する予定としている。

【所見】

SCHOOL” S”はロビーがあったり、プレイルームがあったりと学校らしくない、家庭にいるのと同じようであり、白を基調とした過ごしやすい工夫がされているのが見受けられた。一日50人弱の利用がある様であり、この施設による支援が大きな効果があることが見受けられた。オンラインも含めて、児童生徒が家庭以外の社会とつながっていくことが出来るようになっており、その役割は大きい。

課題としては立地が東広島市にあるため、本市からの日常的な通学は困難である。市町の適用指導教室との連携による支援を引き続き実施していくようであるが、不登校の児童生徒が増加傾向である状況においては、県の北部にも同様な施設の設置を将来的には考えていく必要がある。